

\*\*\*\*\* 目次 \*\*\*\*\*

P1 仲間たちの近況報告(1)

1班 高橋 弥生

2班 近藤 フミ子

P2 仲間たちの近況報告(2)

3班 玉尾 洋一

4班 大野 眞理生

P3 私の玉手箱 前田 長治

P4 樹木ウォッチング 遊上 眞一

P5 絵画コーナー 山下 勝弘

P7 書画コーナー 今本 芙佐子

P8 写真コーナー 日下部 一一

P10 俳句・川柳・短歌コーナー

山上 恵子

宮澤 富美雄

谷坂 修二



フクシア（アカバナ科）

◇自然と文化だより◇

2025年4月13日「大阪万博」が開催される。1970年に開催され、55年ぶりだ。新聞に入場券の販売が好調だと載っていた。入場者目標は2300万人。ん！？第1回目の「大阪万博」は6422万人の実績があり、目標が少ないと思ったが、1970年は日本が「成長期」にあり、2025年は「成熟期」にあることだ。最近の開催実績から考えれば、かなり意欲的な数字だそうだ。コンセプトは「未来社会の実験場」。万博を通じて健康医療分野、空飛ぶクルマなどのスマートモビリティ分野、水素燃料電池船など環境・グリーン分野、人工知能（AI）やビッグデータの活用などデジタル分野で様々な実験を勧め、社会での実用化につなげる。前回万博では、ワイヤレステレホンが人気だったのが記憶にある。1990年代には小型化されて激増した。今回は何が現実となるのか楽しみだ。

Y. T

温めてきた想い、実現に向けて  
～京都府立植物園での取り組み～

1班 高橋 弥生

今年1月、植物園は100周年を迎えた。園内は100周年の文字で溢れている。定年退職後、



次なるステージを求めてボランティア活動を始めた。あれから7年、植物との触

れ合いはますます広がった。

園で白い杖を持った人を時々見かけるが、手引きの人の説明を聞くだけで終わっている。園では公に触ることが出来ない。もちろん葉や花をちぎることは禁じられている。見えない人たちが楽しめる観察会は出来ないものだろうか。ずっと温めてきた想いを思い切って園の職員に訴えてみた。ちょうど100周年の取り組みと重なって、園としても新しい取り組みを模索しているところだった。

私の提案は順調に進み、昨年5月に視覚障がい者対象のプレ観察会を行った。それが好評



で次のステップに進み、10月には、ボランティアを対象にスキルアップ講習会が開催され、その講座の一つに、“視覚障がい者へのガイド”を設け、手引きの方法や、当事者の声を聞くことができた。この講座には約60人のボラが受講し、さらにその中から希望した12人がガイドの試験を受けた。私もその一人だ。もうすでに、試験的に視覚障がい者のガイドを3回実施しているが、触る、匂いを嗅ぐ、音を聞く、味わうなど五感をフル活動させた観察会は好評である。本格的な活動は4月から始まるが、この取り組みが府民や

全国に広まり充実していくことが私の願いでもあり、楽しみでもある!!

1月、園長からガイド認定証を交付される



アポイ岳とちょこっとむかわ町立穂別博物館  
2班 近藤 フミ子

「アポイ岳どう?」と言われ「ハイ!行きます。」昔から行きたかったアポイ岳、体調は良くないけれど次声掛けしてくれるとは限らないので。

山全体がカンラン岩の山海抜810m



5合目まではなだらかで森林浴、8合目あたりからは石だらけで急になり、途中、花には出会っていますが名前がわかるのはアポイマンテマ → 8月下旬に行ったので花は少なかった。登山は苦しかったけど楽しかった?!(・\_・) 道案内のライチョウ? じわじわと感激してきたのが 様似町のこの場所、



ユーラシアプレートと、北米プレートの境界、反対側アイスランド(ギャオ)(2018/3)にも行っていたので。



むかわ町立穂別博物館のモササウルス

楽しかった!

## AIとは

3班 玉尾 洋一

私が青春を謳歌してるころ(1968年)SF映画「2001年宇宙の旅」が公開された。内容は木星探査ロケットに搭載されていたコンピューター「HAL」がこの計画に疑問を抱き、殺人までして阻止しようとした、機械が人間を支配する恐ろしい映画だった。1951年に発表した短編小説「The Sentinel」がヒントで製作されたのだが、半世紀以上前のSFが現実になりつつある。



人工知能(AI)は、機械が人間の知能を模倣し、学習し、問題を解決する能力を持つ技術やシステムを指す。コンピューターの処理能力の向上や大量のデータの利用可能性が増加したことにより、AIの発展が加速して私たちの日常生活や産業の効率向上に大きく貢献している。例えば自動運転車、音声アシスタント(例:Siri、Alexa)、自動翻訳、顔認識など。これらは弱い人工知能と言われ、強い人工知能はあらゆる知的なタスクを人間と同様にこなすことができる理論上の存在であるらしい。これが発展して「HAL」になるのだろうか。

AIを身近で感じられるようになったのは、人工知能の研究開発機関「OpenAI」により開発されたChatGPTだ。ユーザーが入力した質問に対して、まるで人間のように自然な対話形式でAIが答えるチャットサービスで、回答精度が高く利用者が爆発的に増えている。音声入力にすぐになるだろう。こちらがしゃべると、コンピューターが答える。まさに「HAL」だ!

ChatGPTで出来る事。①質問応答:知りたい事をすぐに返答してくれる②文章生成:案内書、報告書などの作成③言語理解:言語の意味を理解して適切な応答を生成④プログラミングのサポート⑤言語翻訳 など利用価値は高い。国会答弁もこれにより作成され、官僚の残業が減るとも言われている。一方で、AIの発展には倫理的な問題や社会的な課題、すなわちプライバシーの懸念、雇用の影響、偏ったデータによる差別などが伴い、適切な規制と倫理的な指針が求められる。また人間の思考能力の低下も懸念される。何事においてもほどほどが一番かも。

## 高見山山行

4班 大野 眞理生

高見山は三重県と奈良県にまたがる標高1248mの山である。見える角度によっては整った三角形に見える為“関西のmatterホルン”と称されている。



厳冬期に登ってみたいと若い頃より思っていた。

この山が私を惹きつける訳は、山頂から

台高山脈や大峰山脈、金剛山など紀伊半島の山々を見晴らせて眺望に優れていること。そして、氷を纏ったブナ林が山肌いっぱい白くキラキラと輝き、エビの尻尾(木や岩等に強風によって付着したエビの尻尾状の氷雪)が見られることである。

高見登山口を出発し尾根をゆっくり登り、紀州藩の参勤交代や伊勢参り、塩や米、魚などの交易に利用され盛んに人々が往来していた旧伊勢街道の石畳が残る道を進み、小さく開けたところに古市跡があり小休止。更にしばらく行くと林道に出て小峠に出た。例年であればこの辺りからアイゼンの装着だがまったく雪がない。霧氷どころかエビの尻尾もないかと不安がよぎる。只管山頂を目指し登行する途中、神武天皇が敵情視察の為に登ったとされる国見岩を過ぎた急坂からシャベット状の雪で滑りやすくなる。「多武峰、大職冠、藤原鎌足公」と三度叫べば揺るぎだすと言われる揺岩などの大岩を過ぎ13時前に山頂に到着。昼食の豚汁が冷えた体を温めてくれる。風が強いが晴天。360度の眺望に暫し見とれる。山頂の北面には積雪が少しあるが南面は全く雪なし。そして霧氷もなし。下りは雪で滑って危険なので山頂からアイゼンを装着して下山にかかる。

下山の平野登山口までは比較的人の歩かないコースなので荒れている可能性があり足元を確かめながら慎重に下る。途中、雪の消えた場所で泥にまみれたアイゼンを脱ぐ。気温が高くなり汗ばむ。樹齢700年を超える高見杉で小休止し大杉に見とれる。そこから下山口まで10分であった。



霧氷は見ることはできなかったが、紀伊半島の山々が眺望できたことを喜び、次回を期することにした。

キリマンジャロに登頂！

1班 前田 長治

2020年2月下旬にキリマンジャロに挑戦した。最高峰のウフルピーク（5895m）を目指すも、降雪のためツアーリーダーの判断でギルマンズポイント（5682m）までとなった。気力はあったが、体力は限界に近い。登山時に感じる疲労感とは、若干異質の疲労感であった。ツアーの構成は、ツアーリーダー1名、参加者10名（全員ギルマンズポイントを達成）現地スタッフ36名（ポーター25名 コック2名 酸素持ち3名 ガイド6名）。

2月23日、マラング・ゲート（1800m）から登山開始。約4時間程度で、最初の小屋（ハット）であるマンダラハット（2727m）に到着した。ハットは、建物とベッドだけであり、他はすべてツアーが準備する。もちろん、シュラフも持参である。

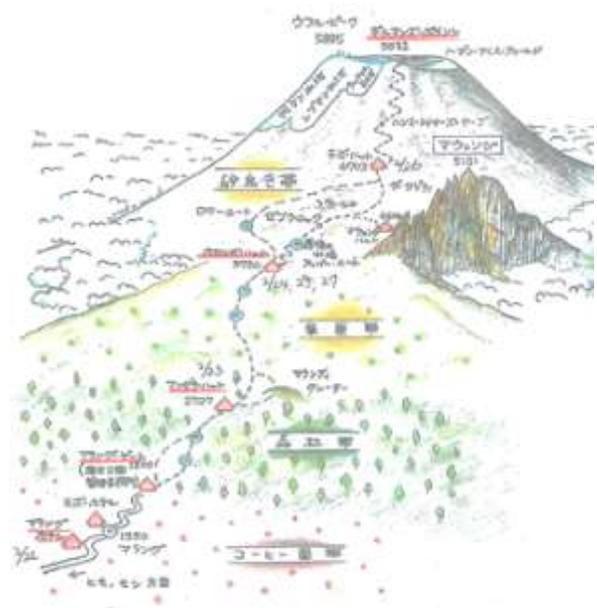
翌24日は6時のコーヒーサービスで起床、洗面用のお湯サービスあり7時に朝食（スープ、食パン）8時出発、ランチボックスを貰う。16時ごろホロンボハット（3720m）に到着。若干疲労あり。ダイヤモンドを半錠貰う。8時間で標高を約1,000m上げたことになる。通常1,000mの標高上げには、3、4時間を設定するので、半分の歩行速度である。ここから、血中酸素濃度（SpO<sub>2</sub>）測定を始めた。82%である。高山病対策①ゆっくり歩く（走らない）②水分を大量に摂る。③呼吸は吐くときに、圧力を掛ける。（風船を膨らます要領）④到着後はすぐに眠らない。夕食後に眠る。⑤腹八分目。

翌25日は、高所順応のため、ゼブラロックまでハイキングをした。空気が乾燥しているのと、汗をかかないので、あまり不快感はなかった。

26日は、朝のルーティンを行い、8時出発（食事には、飽きてきた。）3時ごろに、ギボハット（4703m）到着。SpO<sub>2</sub>は73%となる。5時ごろ睡眠したが、2時間に1回トイレに行った。睡眠も束の間で、22時半に起床、23時半の出発である。もちろん暗闇の中、ウフルピークを目指した。雪が降り出した。一時止んだが、また雪が降りだした。全員が、ギルマンズポイント（5685m）に登頂した。山頂は、他のグループもあり大混雑した。ウフルピークへの希望者は、5人となったが、降雪（約5cm以上）のため、ツアー

リーダーが中止を宣言したので、やむなく下山した。雪道の下山も大変であった。一気にホロンボハットまで下山した。高山病対策で長居は無用である。そこで宿泊し、翌朝は、朝のルーティンは5時から始め、6時半に出発し、昼過ぎにマラング・ゲートに到着。ワインで乾杯し登頂証明書の授受を受ける。達成感を感じる。28日は、専用車でアルーシャ国立公園近くのモメラ・ワイルドライフ・ロッジに移動し、宿泊した。まともな食事とシャワー（少し暖かい）にあり付けた。29日は、アルーシャ国立公園のサファリを観光した。

3月1日に成田に到着し、空港近くのホテルに宿泊した。バスタブに浸かるのは、久しぶりである。その時耳の日焼けに気づいた。



高山に生えるカエデ 2

3班 遊上 眞一



冷温帯の多雪地に自生するテツカエデ。  
葉柄は、かなり長い。芦生



冷温帯の湿地に生えるカジカエデ。  
カナダの国旗に似た形の葉。四国鳥形山



鋸歯がないイタヤカエデ。赤西溪谷



冷温帯の湿地に生えるカラコギカエデ。尾瀬



日本海側の多雪地に生えるヤマモミジ。  
一斉ではなくバラバラに紅葉。岩木山



分裂しない葉、ヒトツバカエデ。朽木の森



毛深い三出複葉のメグスリノキ。戸隠高原



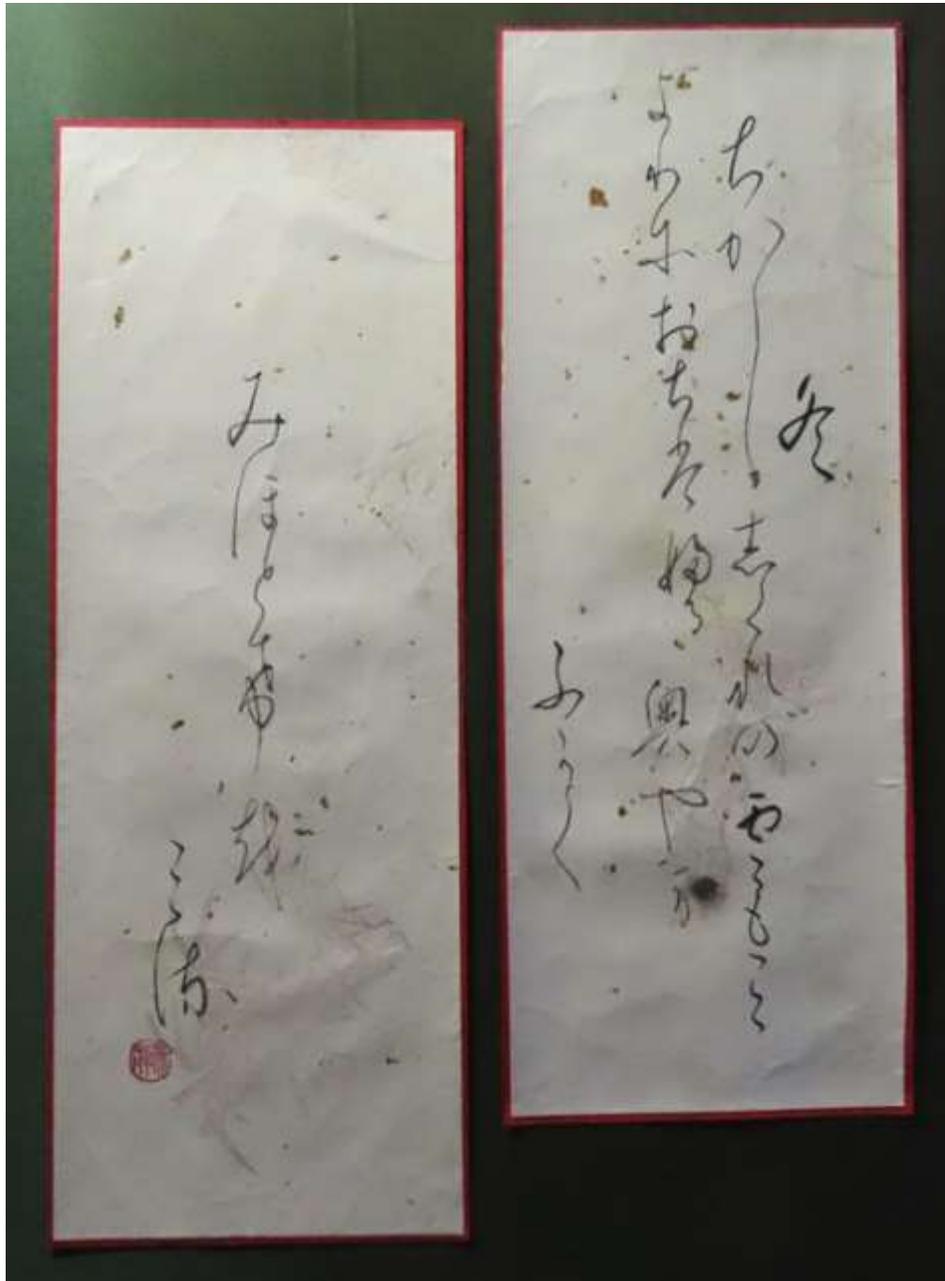
葉の上半分に明確な単鋸歯の三出複葉、  
ミツデカエデ。花明山植物園

覚悟

1班 山下 勝弘

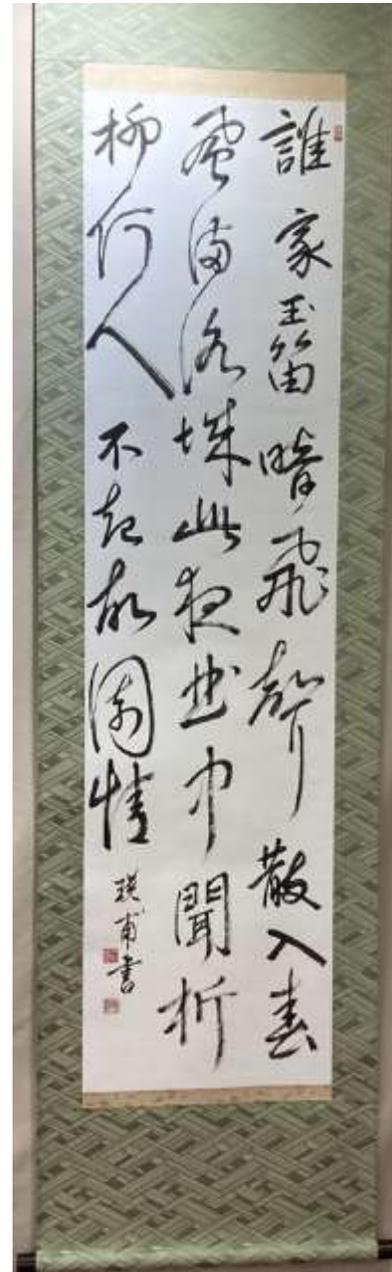






冬近し時雨の雲も此所よりぞ  
 落葉ふる奥深く御仏を観る

与謝 蕪村  
 山頭火



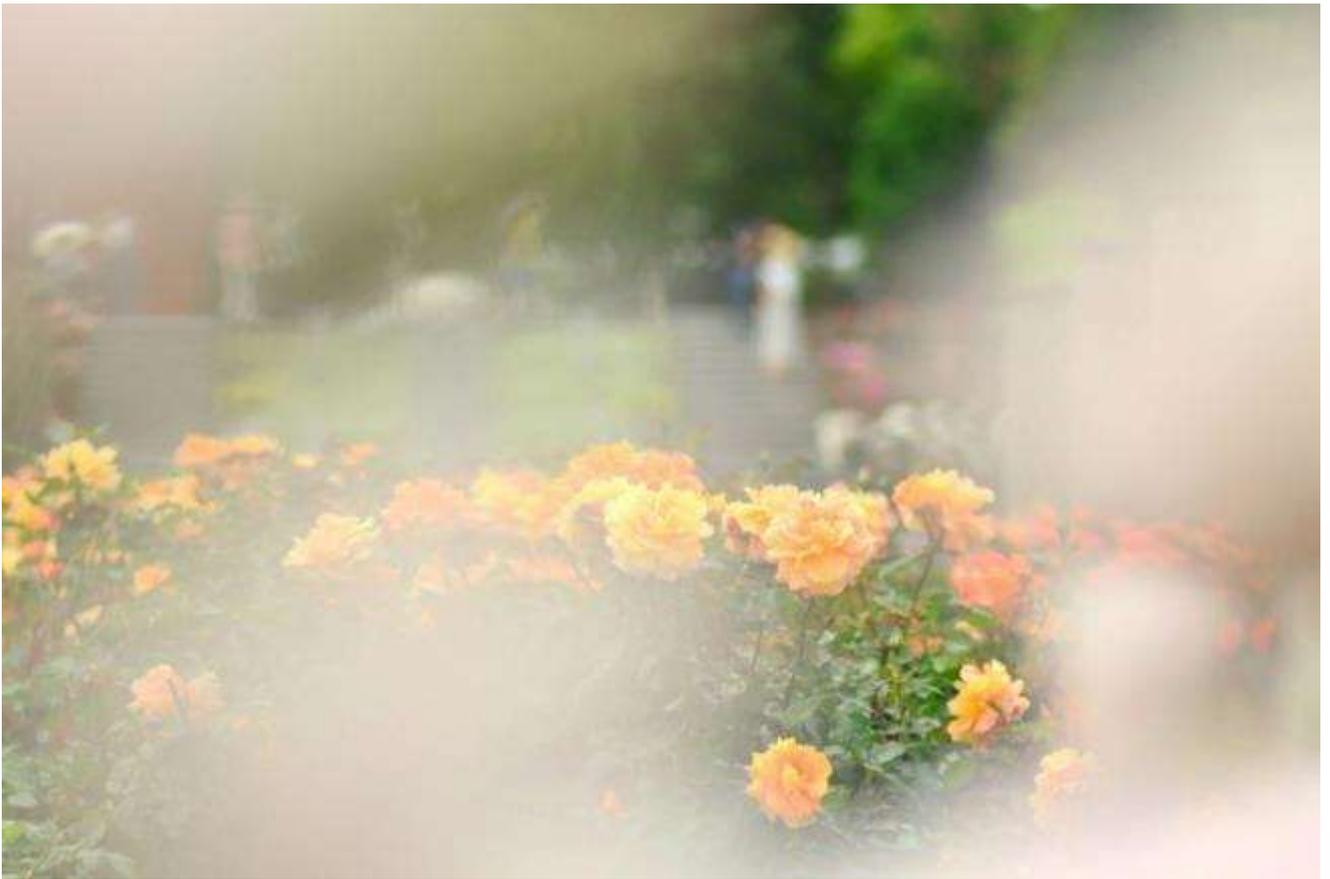
李白の詩  
 誰家玉笛暗飛聲。散入春風滿洛城。  
 此夜曲中聞折柳。何人不起故園情。  
 誰が家の玉笛か暗に声を飛ばす。  
 散じて春風に入つて洛城に満つ。  
 この夜曲中折柳を聞く。  
 何人か故園の情を起こさざらん、

「感性としての花々・赤白黄青」

1班 日下部一一



「郊外にて」



「元気だして」



短歌

- ・先行きの見えぬ世界の情勢と気象情報地球は何処
- ・一本の木を縦割りに弐,三体円空菩薩の暖かな笑み

俳句

- ・霜柱池の周りの登校路
- ・囲まれて柚子湯の中に顔一つ

川柳

- ・旧姓を呼ばれて思わず返事する
- ・私まで捨てたくなかった大掃除



川柳

- ・寒いから 雨が降るから 暑いから
- ・忘れるな 薬の時間と 通院日
- ・医者からも きつく言われた 3杯目
- ・嫌だった 母の「おやき」を 懐かしむ
- ・思い出を いっぱい残し イヌが逝く



俳句

- 忘年会一杯だけが腹いっぱい
- 初詣で登龍の門探しけり
- 水を噴く龍に水かけ春きらり
- キラリ点(さ)す雫一筋ツララ瀧
- カメラマン梅一輪に目白押し



区切りの60号に投稿頂きました皆様、お陰様で無事発刊することが出来ました。ありがとうございました。今後も引き続き皆様のご協力をお願いいたします。